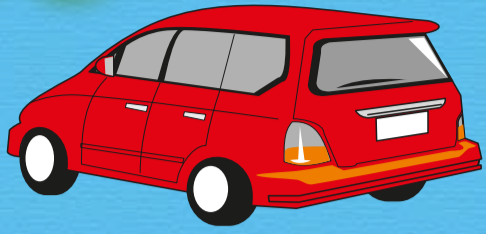


カー



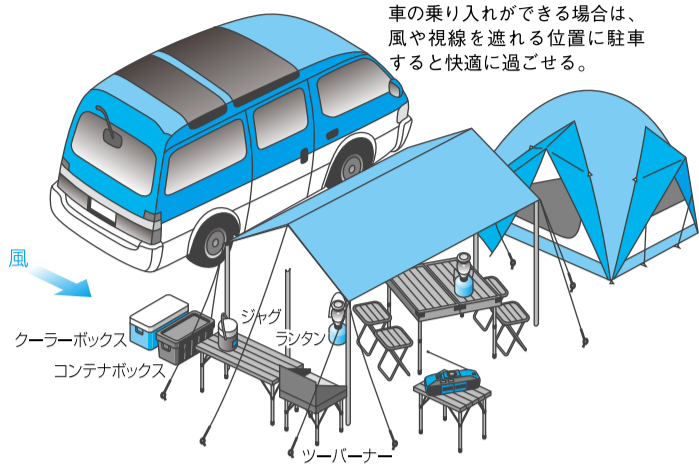
&

レジャー



テント設営のポイント

快適に過ごせるように風の向き、混み具合、トイレの位置などを考慮して、サイト（区画）内で機能的なレイアウトを考えてください。サイトを選ぶ場合は、風の通り道、トイレのそばは避けましょう。テントは南向きに張るのが一般的ですが、日差しが強い夏は例外。木陰などが快適です。ただし、あまり高い木の側は落雷の危険性があるので避けてください。



車の乗り入れができる場合は、風や視線を遮れる位置に駐車すると快適に過ごせる。

レイアウトを決めたら、最初にタープを設営すると、日差しを遮ることができ、万が一雨が降っても安心です。そのためにタープはすぐに取り出せる場所に積んでおきましょう。

撤収の際の注意点

慣れないと意外に時間がかかってしまいます。早く終わったら、最後に散歩をするぐらいの余裕を持って、チェックアウトの2時間前には作業を始めましょう。

よく乾かしてから収納する

テント、タープは雨が降らなくても朝露などで濡れてしまいます。晴れなら時間が許す限りそのまま放置して、乾かしてからたたむと傷みが少なく、帰宅後の始末も楽。濡れたまま仕舞う場合は、大きなビニール袋かクーラーボックスなどに入れて持ち帰りましょう。

泥を落とす

テーブルやイスの脚、ベグ（テントやタープを地面に固定するロープ止め）などについた泥は、面倒でも、その場で雑巾で拭いておかないと、ほかのものまで汚れてしまいます。

ゴミをまとめて持ち帰る

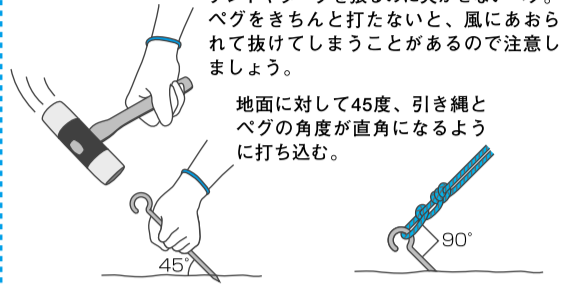
ゴミは持ち帰るのがルールです。キャンプ場によってはゴミ捨て場が設置されているところがありますが、そこに捨てる場合は、きちんと分類して捨てましょう。

はじめてのアウトドア

One Point Advice

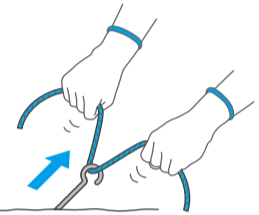
上手なベグの使い方

テントやタープを張るのに欠かせないベグ。ベグをきちんと打たないと、風にあおられて抜けてしまうことがあるので注意しましょう。



地面に対して45度、引き縄とベグの角度が直角になるように打ち込む。

抜くときは、ロープなどをつかって、ベグに対して垂直にをかれるとよい。



ベグが足りなくなったとき、地面がコンクリートでベグが打ち込めないとき、砂地でベグがきかないような場所では、袋に石や砂をつめたものを使うのも手。



アウトドアグッズの種類と選び方

テント

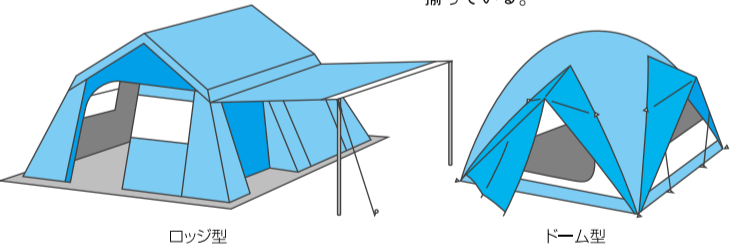
小人数で2～3泊までのキャンプなら設営の簡単なドーム型テントがお勧め。大人数や長期の滞在ならば室内が広く、前室がついているロッジ型の方が居住性がアップします。テントに表示されている収容人数には荷物スペースが含まれていないので、それより一人少ない人数で使用できると考えましょう。

●ロッジ型

広さ、高さともスペースあるので居住性がよい。その分、重量があり、設営に時間がかかる。

●ドーム型

軽量で携帯性も抜群。設営も簡単に行える。一人用のコンパクトなサイズから、高さも十分な大人数用まで揃っている。



ロッジ型

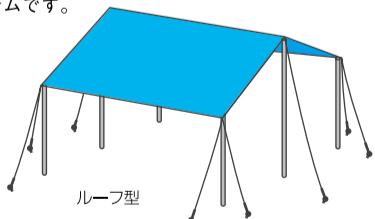
ドーム型

タープ

テントがロッジ型の場合は、張り出しがタープの役目を果たしてくれますが、ドーム型の場合は欠かせないアイテムです。

●ルーフ型

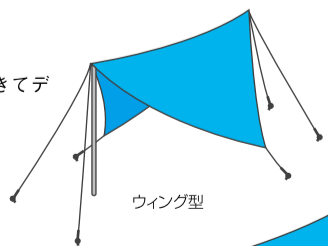
クルマに接続したり、片側半分を地面にベグ打ちするなど応用性が高い。



ルーフ型

●ウイング型

ポール2本で簡単に設営できてデザインが美しい。



ウイング型

●ヘキサゴン型

ウイング型とルーフ型の中間的なデザイン。横綱が多く風にも強い。



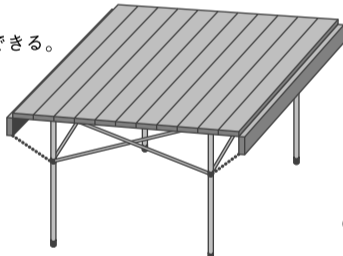
ヘキサゴン型

テーブル&イス

使い心地とともに、収納性、重さも考慮して選ぶことが大切です。

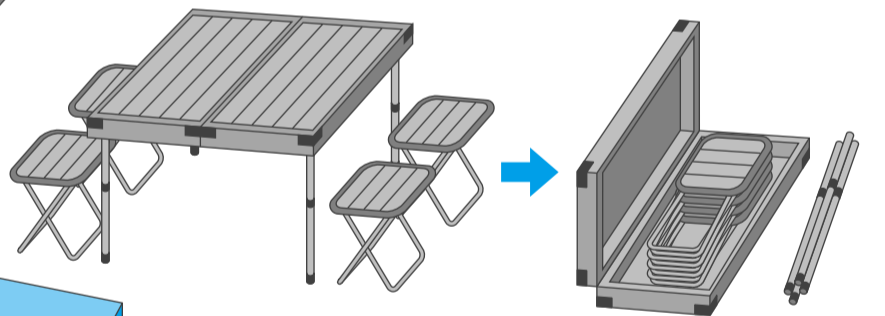
●ロールアップ型

天板を丸めて収納できる。



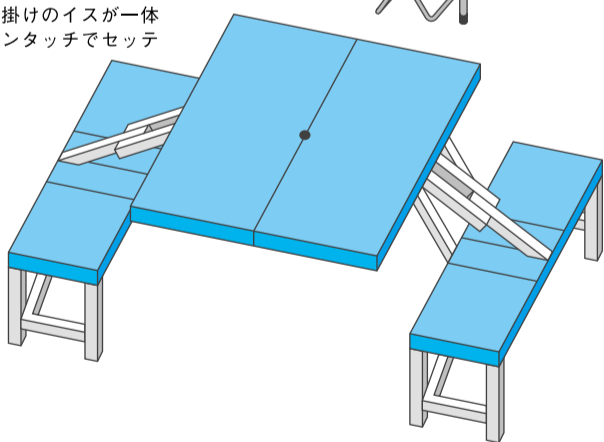
●トランク型

テーブルが2つに折りたため、その中にイスが収納できるのでコンパクトにまとまる。



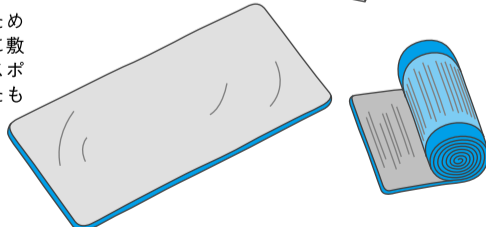
●一体型

テーブルと4人掛けのイスが一体になっていてワンタッチでセッティングできる。



マット

地面からの湿気と冷気を防ぐために、スリーピングバッグの下に敷いて使います。エアマットやスポンジマット、発砲素材を使ったものなど素材も各種あります。



スリーピングバッグ

マミー型、ラップ型はコンパクトに収納できるのが利点ですが、多少窮屈。封筒型なら布団と同じような寝心地が得られます。サイズは子供用や女性用、長身用など豊富。身長プラス20cm程度のものが楽に寝ることが出来ます。

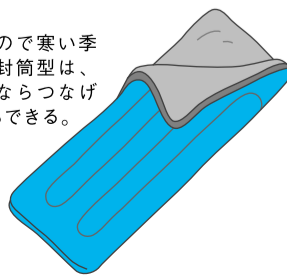
●マミー型・ラップ型

頭まですっぽり覆うので肩口から冷気が入らず暖かい。



●封筒型

肩口が空くので寒い季節は注意。封筒型は、同じタイプならつなげて使うこともできる。



ランタン、燃料

明るさで選ぶなら、燃料がホワイトガソリンのタイプを。ガス式は、ホワイトガソリンよりも明るさは落ちますが、手入れは楽です。テント内で使うのなら、電池を使った蛍光灯のタイプが安心。いずれにせよ、明かりは複数あると何かと便利です。虫は明るいところに集まってくるので、メインの明りをやや遠くに配置して、テーブル上にサブの明りを置くようにしましょう。



ガスランタン

コンテナボックス

用途や使用する場所ごとに用具を分類してコンテナボックスに入れ、表面に中身のリストを貼っておくと、取り出すのに便利。同じサイズのボックスなら車にも積みやすくなります。

救急箱、保険証

アウトドアでは思いがけないケガをしたり、疲れから発熱や胃痛を起こすことがあるので、一通りの薬を用意しておきましょう。薬が足りないときや、対処法がわからないときは、管理人に相談してください。病院に行くことも考えられるので、保険証も忘れずに持参しましょう。

布粘着テープ

テントやタープが切れたり、ポールが折れたとき、クーラーが割れたときなどの応急処用に便利に使えます。

その他に必要なもの

- 雨具（レインスーツ）
- 洗面道具、タオル
- 着替え
- 懐中電灯、電池
- 蚊とり線香、虫よけスプレー
- トイレトーパー、ティッシュペーパー
- ゴミ袋
- 新聞紙
- 雑巾

※その他、料理をするための用品（No.59「アウトドアクッキング」を参照）も必要です。最近のキャンプ場は設備が充実しており、キャンプ用品のレンタルサービスを行っているところも増えてきました。最初は、借りられるものはレンタルして、徐々に必要なものを買っていきながらと経済的です。